

「お言葉どおりに」

エレミヤ書 第32章 16節～20節
ルカによる福音書 第2章 26節～38節

説教 岡村 恒牧師

「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。(ルカによる福音書第1章38節) マリアが神様に導かれて、口にした信仰告白です。私たちもまた神様によって与えられ、告白しながら歩んでいる言葉です。

マリアに主の御使いガブリエルの言葉が届きました。「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。(28節) これは驚くべき言葉でした。受胎告知と言われる絵が、世界中の教会や美術館に飾られています。平和そうな美しい絵が描かれますけれども、実際にはとてつもなく悲惨な場面です。当時のイスラエルでは、結婚前の女性が子を身ごもるといのは、死刑を意味しました。姦淫の罪であります。

世界中で多くの人が聖書を読みます。神に出会いますが、信じるようになる人は多くはいません。神を受け入れることや、処女の妊娠、死んで葬られた者が3日目に復活をする話になると、そんな事があり得るはずがないと誰もが言い出します。聖霊の助けなしには信じることはできません。マリアもそうでした。「どうして、そんな事があり得ましょか。」(34節) このマリアの驚きと恐れの中から出た言葉は、今も世界中にあふれています。

宗教改革者マルティン・ルターは、マニフィカートと呼ばれるマリアの讃歌が大好きでした。主よ、私はあなたを崇めますという言葉で始まる讃美歌です。ルターは、マリアにこの信仰を与えた神に注目しました。どうしてそんなことがありえましょかと繰り返し口にする私達を、神は創り変えて信じる者にしてくださいませ。御使いは言いました。「神には、なんでもできないことはありません」。(34節) 全知全能の神が私達と共に歩んで下さるのです。

私たちは神を崇めることに、いつも失敗します。全知全能の神は、私たちの魂の奥底まで知り尽くし、その汚れた姿から目を背けようとせず、私達を見守り続けてくださるお方です。クリスマスが来ると、1つの言葉を世界中の人が聞きます。生まれてくる子、「その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。これは、『神われらと共にいます』という意味である。」(マタイによる福音書第1章23節) 主イエスがお生まれになったとき、神が私達と共におられるということが、明らかにされました。神が人間になっ

てこの地上を一緒に歩んで下さる。この奇跡が起こったと聖書は伝えます。

マリアはこの日、全知全能の神を知りました。本来なら、御使いが告げたことは死刑宣告です。しかしマリアとヨセフはこれが奇跡であることを受け入れます。この夫婦は神によって変えられ、目に見えるものに囚われて生きる世界から解放されました。

聖書の言葉は私たちの人生を中断します。神が私たちの人生に突入してくるからです。マリアは神の使いに語りかけられたとき、自分の姿を知りました。私は神の前に立つ資格はなく、神に顧みられる者でない。神がどれほど大いなるお方かを知り始めたとき、自分の罪の奥深さを思い知りました。しかし同時に、神が私を愛し、語りかけてくださっていることを知りました。だからマリアの口は、ただ神をほめ称えます。マリアを創り変えて、信仰をお与えになった方が、今も変わらず私達に語りかけておられます。

「お言葉どおりこの身に成りますように」。ある英語の翻訳はこれを「Let it be.」とシンプルに訳しました。いつでも思うように行かないその人生、そこに神の計画が実現し、神のみ心になっていく事を信じた者は幸いです。自分の人生の主が全知全能の神であることを知って生き始める者は本当に幸せです。

今日から待降節に入りました。かつて主イエスは来られました。私たちの罪の赦しを実現するために。今、主イエスは生きておられます。再び来て私達を呼び集め、用意された神のみ元に引き上げて下さるために。私たちは、世界中の信仰者と一緒に1つの祈りを祈ります。〈マラナ・タ〉、主よ来てください。終わりの日、永遠の世界の到来の時を来たらせてください。聖霊なる神が働いてくださるとき、私たちの口から神の栄光をほめ称える讃美と感謝、そして主イエスの再臨を待ち望む言葉が出るのです。

この日、マリアは、驚きと恐れと絶望から、喜びと讃美の中へと移されました。私たちの人生も今日から変えられていきます。共に主をほめ称え主の再臨を待ち望みながら、このアドベントの歩みを始めましょう。

(記 説教要約奉仕者)